

十勝岳噴気活動

62-2 火口噴気温度は 2003 年の約 400°C から 200°C 以下に低下したが、見かけの平衡温度は 300-400°C を維持しており、地下では依然高温であると推定される。62-2 火口噴気の CO₂/S 比、H₂O/S 比は 2003 年以降低下後、その後ほぼ一定。大正火口組成にも大きな変動は見られないが、2014 年 7 月の噴気温度は 312°C とやや上昇している。

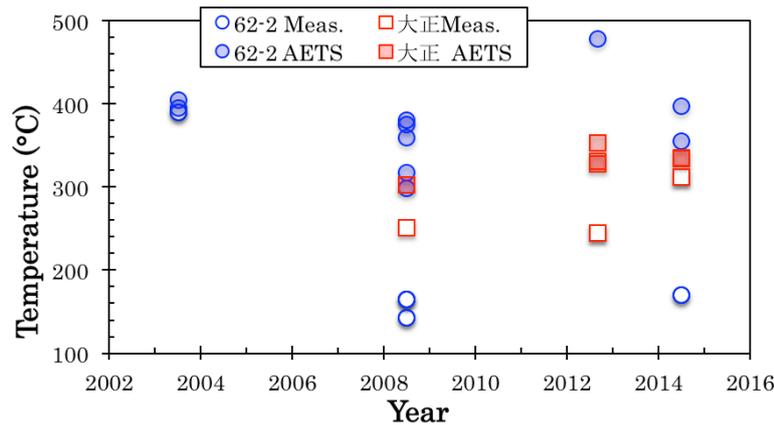


図 1 噴気孔温度 (Meas.) および見かけの平衡温度 (AETS) の変化

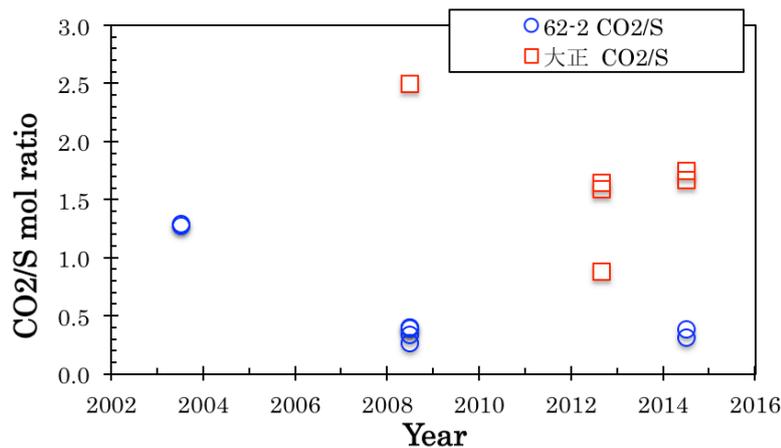


図 2 火山ガス組成の CO₂/S 比の変化

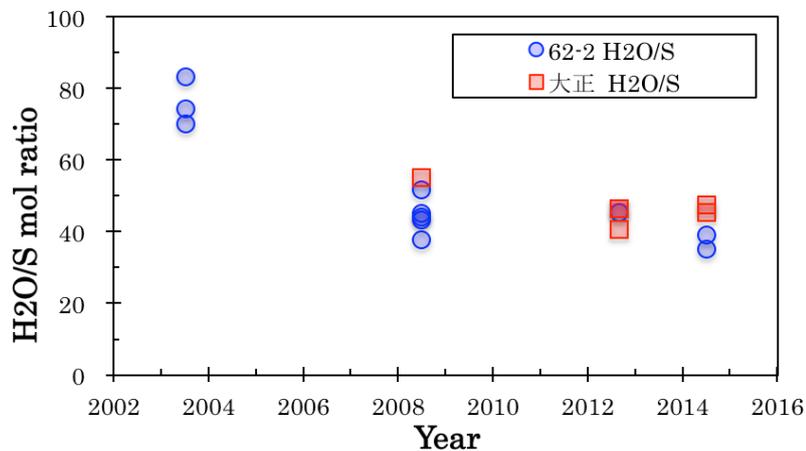


図 3 火山ガス組成の H₂O/S 比の変化